現地レポート
長野県飯田市

梨のお礼肥に千代田化成 翌年の花芽伸長に違いあり

果樹王国、長野県飯田市。
年明けの剪定から始まり、春の受粉・摘果、夏から暮れにかけての収穫・出荷。果樹は一年中作業が続く、本当に大変な作物です。
今回ご出演いただいた松澤英俊さんは、ご実家を継がれて11年目。30代の若手生産者です。
栽培のポイントや、農業に対する思いについて、熱く語っていただきました。

サンアグロ
SUN AGRO CO., LTD

■春、咲き誇る花を見るとファイトが湧きます

「夏の桃から冬の市田柿まで、収穫と出荷が途切れないように、それぞれの果物の品種を選んでいます。」
松沢さんは梨・桃・りんご・柿を栽培する生産者です。総面積は2ヘクタール。
「春、畑で花が咲き誇っている姿を見るとファイトが湧きます。また、雌しべがしっかりしていると、『今年はいいものが採れる』と感じることが出来ます。」

4月下旬の梨園。今年も満開です。

一年中作業が続く果樹栽培。その中でポイントになる作業をお聞きしました。
「受粉が一番重要な作業だと思います。花が咲く頃は天候が不順で、受粉のタイミングを的確に捉えるのが難しい。タイミングを外さず、確実に受粉するように人数をかけて、手で受粉しています。」
この年（平成25年）の春、飯田地方は凍霜害に見舞われ、ほとんど収穫できなかった畑もありました。
松沢さんも被害を受けましたが、防霜ファンのおかげで被害を最低限に止めることができたそうです。

飯田の春はモモも満開。

■梨のお礼肥に千代田化成

「梨のお礼肥に、千代田化成を使っています。施肥量の目安は反当40キロ。速やかに効いて樹勢が回復し、貯蔵養分が蓄えられます。だから、翌年の花芽の伸びが速いんです。」
お礼肥は施肥直後だけではなく、翌年の生育にまで影響します。
「花芽の伸長が遅れたり、ばらついたりすると、受粉作業に悪影響を及ぼします。これは、果実にも良くないことなんです。」

■施肥のポイント

「樹の状態や、品種によって施肥量を変えています。」
施肥量は果実の品質に大きく影響します。
「梨の場合、腋花芽（えきかが）栽培の幸水は多め。短果枝（たんかし）栽培の豊水・南水は少なめにします。りんごなどは、枝が伸びている間は施肥しないことすらあります。肥料をやり過ぎると、『樹を作って稔りなし』という状態につながってしまうのです。」

■毎日、責任を感じながら

「大学に入学した当初は、東京で就職しようと考えていました。」
松沢さんは高校卒業後、農業大学に進学されました。
「実家が農家だという同級生の多くが、実家を継ぐ目的で勉強していました。その姿を見ているうちに、自分も継ごうと思うようになりました。代々続けている農業を、自分の代で切らすわけにいかない。これだけの物を残してくれたんですから、大事にしないと。」

晩秋の飯田はりんごの収穫に追われます。

松沢さんは収穫物を、東京や千葉・神奈川のデパートに出荷しています。
「年に2回ほどデパートに出向いて、直接お客様に販売しています。自分の目の前で収穫物が売れていくのは、本当に嬉しいです。前日に買ってくれたお客様が、『美味しかったから』と、翌日も買いに来てくれたこともありました。」
消費者と直接会話することは、松沢さんにとって非常に貴重な体験のようです。
「消費者の生の声を聞くことは、私の活力になりますし、また、作った物に対して責任を感じます。今は毎日、責任を感じながら働いています。」
りんごの樹の前で、本当に楽しそうに話してくださいました。何だか私まで嬉しくなるような取材でした。
松沢さん、ありがとうございました。

■編集後記（写真：元善光寺）
「確かに大変だし、辛いこともあります。でも、やり方次第でお金も取れるし、収穫の喜びは何物にも代えられません。」
若い生産者が皆、このように思うことが出来たら。農業の基本はここにあると思います。
清々しい気持ちになることができた、そんな取材でした。